

334 関西空港周辺域のメバル追跡-3

・中村憲司・向井幸則(シャトー海洋調査)・三田村啓理・圓尾哲也(京大農)・光永靖(近大農)・荒井修亮(京大院情報)・坂本亘(京大院農)・佐々木雅人・米田佳弘(関空)

【目的】 関西国際空港島の緩傾斜護岸には多くの魚介類が生息することが確認されている。本研究は、同海域周辺の重要磯根資源であるメバルに注目し、その成魚の移動特性を把握して、今後の資源管理に資する基礎的資料とすることを目的とした。

【方法】 供試魚は、空港島護岸で採取されたメバル40尾(護岸産)、および大阪府淡輪漁協地先で採取されたメバル6尾(淡輪産)を用いた。メバルの全長は、約20~25cmであった。供試魚の腹腔内にコード化ピンガー(Vemco社製 V8SC)を装着した。放流は空港島東側護岸の北寄りの垂直護岸域で実施し、一部は護岸から約4 km離れた対岸部の田尻町地先でも行った。追跡はハイドロフォン-VR28(Vemco社製)を用いて、船速約2ノットで行った。また、設置型のハイドロフォン-VR1(Vemco社製)を連絡橋の橋脚に2台設置した。メバルは平成12年9~11月の間で5回に分けて放流し、同年12月まで追跡した。

【結果】 空港島東側護岸の垂直護岸域に放流した護岸産の各個体は、東側護岸に沿って次第に南(緩傾斜護岸域)へ移動した。各放流群の追跡日の間隔は同一ではないが、護岸で確認されたのは35尾中、3日目で26尾(73%)、7~10日目で24尾(69%)、20~31日目で21尾(60%)、最終は102日目に1尾確認できた。このように、護岸における確認尾数は次第に減少しており、他所へ移動した可能性が示唆された。また、対岸部に放流した護岸産の5尾は、翌日~11日後までに合計3尾空港島護岸で確認された。対岸部に放流した淡輪産の3尾は、翌日以降発見されず、護岸に放流した淡輪産の3尾は、護岸のみで確認されたが次第に減少した。